

## 2016年9月5日、午前、外務省交渉。

外務省からはアジア・大洋州局中国モンゴル第一課の中原邦之地域調整官と、同中国モンゴル第一課古永誠課長補佐が出席した。

冒頭、林俐さんが曾祖父が殺されてから遺された家族が蒙った苦しみを証言し、「戦争は嫌いだし平和を守るが、被害者の子孫として先祖の無念を果たさなければならない。正義を取り戻し歴史の真相を究明する。1923年の虐殺について日本政府は国家としての責任を果たすべきだ。1924年の閣議決定を実行し、いまだに目を閉じることができない先祖のために、力を尽くすようにしてもらいたい。」と訴えた。

続いて周江法さんと蘇陳槐さんが一族の家譜（家系図）を外務省の二人の脇へ広げ、日本で亡くなったことを記すページを示しながら、このような家譜は温州の家々に沢山あるのだと説明する。



周松権さんが、首相あての請願（要求）書を提出してから3年たつが、何の返答もないことは残念であり怒りを覚えると、交渉の進展を求める「督促書」を手渡した。同時に、8月に入ってすぐにビザ申請を行っているにもかかわらず、発給が極端に遅れたこと（9月2日に来日予定であるのに、ビザ発給は8月31日の夕刻）に

抗議し、「関東大震災時に虐殺された被害者遺族が先祖の受難現地を訪ね追悼することを邪魔しないよう」口頭で要求した。周さんの発言と並行して、他の遺族の皆さんが掲げた「連判状」が会議室壁面の過半を覆う。

鄭楽静さんは日本語で遺族調査の概要を説明した。1923年当時日本には5000人の中国人がおり、そのうち4000人が震災後に帰国している。現在、温州では被害者260名の名前とその遺族を確認している。鄭さんが話している間に周松権さんが302人の遺家族代表が記入したそれぞれの調査書の束（10センチを越える厚さ）を中原地域調整官に示した。

鄭さんは、95歳の遺族林玉英さんが「いまさら話しを聞きに来るのは遅い。私たち家族に何をしてくれるのか」と訴えていることを、外務省にしっかりと伝えた。

ところが、遺族の訴えに対し中原地域調整官は「みなさんのお話しを真剣に伺った。これまでもお話しは関係部署に伝えている。本日のお話し、要望書、関連資料もしかる

べく関係部署に伝えたい。外交史料館などに残された資料を調べている。1924年の経緯はあるようだが、結局中国側がこれ（中国人傷害事件慰藉料20万円）を受け入れないとしたと承知している。一方で90年以上も前のことなので、当時の事実関係の究明は困難だ。20万円払え



ということとはできない。申し添えるが横浜開港史料館を訪問し当該資料を閲覧してきた。こうした資料の存在についても関係当局に伝えたい。」と、他人事のような発言に終始した。これに対しては、日本側の参加者から即座に反論を加えた。

ビザ発給の遅れについて外務省側は、「ビザは日本国が出したくなければ出さなくても良いところを出しているのであり、遺族の皆さんの来日を邪魔するつもりなら本日の場も設定していない」との主張だった。

外務省を離れた一行は議員会館前に移動し、横断幕を収めるための専用キャリーで持参した3枚の横断幕を広げて国会議事堂と向かいあった。

午後からは福島瑞穂議員に要請。参議院議員会館会議室の机5台を覆う「連判状」をじっくりと見ながら、「関東大震災で虐殺された中国人受難者は、虐殺された朝鮮人の



皆さんに比べて、出身地が固まっているようですね」と質問する福島議員に、メンバーそれぞれが説明して交流を深めることができた。

督促書は以下である。

## 敦促书

日本国政府

内阁总理大臣 安倍晋三 先生

去年9月，我们“1923年关东大地震旅日罹难华工后裔志愿者协会”向日本政府递交了敦促书，但是整整一年时间过去了，我们至今没有得到你们的任何回复和信息，令人感到遗憾和愤慨！

去年我们参加了在东京举行的悼念我们祖先的活动，中国驻日本大使馆委派了赵伟参事和黄挺三等书记官参加活动并在追悼仪式上讲话，赵伟参事向广大遇难者同胞家属表示诚挚慰问，向帮助他们的日本各界友人表示衷心感谢。并表示，历史不容忘记，更不能被掩盖和篡改。希望通过举办这样的悼念活动，能够回顾那段历史，让更多的人了解和认识事件的真相，同时警示后人，莫让悲剧重演。希望日方能够真正承担起应尽的政治和道义责任，认真对待并妥善处理有关历史遗留问题，以实际行动体现正视反省历史的承诺，取信于亚洲各国人民和国际社会。这是中国政府对发生在93年前的惨案的关注，是对我们广大遗属的支持。

为此，我们代表七百多遇难华工的遗属敦促日本政府尽早回复去年我们在敦促书中向日本政府提出的四项要求：

1、必须负起作为国家的责任，承认这个历史事实，向1923年关东大地震时被屠杀的中国遇难者以及他们的遗属们谢罪。

2、根据1924年贵国政府内阁决定的赔偿方针并按照现行国际惯例、物价水平和遇难者人数进行修正后实施赔偿。

3、为了以史为鉴，向下一代传达这个历史事实，在加害当地建立纪念碑以及建设包含中国人和朝鲜人被屠杀历史的纪念馆。

4、写入日本的历史教科书，让日本年轻一代知道这段历史，从中吸取教训。

中国有一句俗语叫“父债子还”，日本作为讲究礼仪的国家，理应懂得这个道理。93年来，我们从来没有得到日本历届政府的道歉，更谈不上赔偿。如果作为有担当的政府，理应及时对我们的要求给予回应，而不是采取回避的拖延的态度。

我们强烈要求日本政府能够认真对待我们的合理诉求，尽早给我们满意的回复。

1923年关东大地震被屠杀中国遇难者遗属祭祖代表团

2016年9月5日

联络地址：中国浙江省温州市瓯海区泽雅镇桂川村村民委员会 邮编 325023

同敬  
林刚  
王崇恩  
吴建  
周发华  
同敬  
郑广槐  
林水治

## 督促書

日本国政府  
内閣総理大臣 安倍晋三 殿

昨年9月、私たち「1923年関東大地震下虐殺された中国受難者遺族有志の会」は日本政府に対して「督促書」を提出しました。しかし、まる一年経っても、私たちは未だ何の回答も頂いておりません。これはとても残念で憤慨に堪えません。

昨年、私たちは東京で開催された先祖の追悼活動に参加しました。中国大使館から趙偉参事官と黄挺三等書記官が追悼活動に参加し、追悼式の席上次のように述べました。趙偉参事官は、たくさんの犠牲者同胞と遺族に誠実な弔意を表すとともに、彼等を支援する日本各界の友人に衷心からの感謝の意を表されました。併せて、歴史は忘れてはならず、ましてや、隠蔽したり、改竄することは許されませんと求められました。そして、このような追悼活動を通して、歴史を繰り返し思い出し、更に多くの人々に事件の真相を理解し認識してもらい、同時に後世の人々に悲劇を繰り返さないよう警告してくれることを希望します。また、日本側が政治的道義的責任を正しく受けとめ、歴史遺留問題を誠実に処理し、実際の行動によって歴史の反省を実現し、アジア各国人民と国際社会の信頼を取り戻すことを希望します。これが、中国政府の93年前に発生した残虐な事件に関する関心であり、私たちたくさんの遺族に対する支持です。

このため、私たちは700余名の中国人労働者犠牲者遺族を代表して、去年私たちが日本政府に対する「督促書」で提出した、以下の四項目にすみやかに回答して下さるよう督促します。

- 1、国家としての責任を負い、この歴史的事実を認め、1923年の関東大地震下で虐殺された中国人受難者とその遺族に謝罪すること。
- 2、1924年の貴政府内閣が決定した賠償方針に基づき、現在の国際慣例、物価水準、及び被害者数にのっとって修正したうえで賠償を実施すること。
- 3、歴史を以て鑑とし、次世代にこの歴史の事実を伝える為に、受難現地に記念碑を建立し、中国人と朝鮮人が虐殺された歴史を含む記念館を建設すること。
- 4、日本の歴史の教科書に書き込み、日本の若い世代にこの歴史を伝え、その教訓を汲み取るようにすること。

中国には「父の負債は子が還す」という言葉があります。日本は礼儀を重んずる国として当然この道理をご理解いただけるでしょう。93年来、私たちは日本歴代政府から謝罪を受けたことはなく、ましてや賠償に至っては話題にもなっていません。もし責任ある政府であるならば、当然にも、私たちの要求に対して応え、引き延ばすような態度をとるべきではありません。

私たちは、日本政府が私たちの正当な要求に誠実に対応し、すみやかに私たちの満足するような回答を下さるよう強く求めます。

1923年関東大地震下虐殺された中国受難者遺族訪日慰霊代表団

2016年9月5日

(署名)